
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 令和元年度 実施レポート

- 横浜市立 浅間台小学校 × 山野安珠美 1
アシスタント：森梓紗

- 横浜市立 四季の森小学校 × 入手杏奈 2
アシスタント：北川結、涌田悠

- 横浜市立 飯島小学校 × 岩田とも子 3

- 横浜市立 上菅田特別支援学校 × ドウイ 4
ゲストアーティスト：テニスコーツ

- ハートフルルーム十日市場 × 福留麻里 5
アシスタント：白井愛咲、高橋牧



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浅間台小学校 × 山野安珠美 にじいろの音探し

担当アーティスト	山野安珠美（箏演奏家）／アシスタント：森梓紗（箏演奏家）
実施校	浅間台小学校（西区）
コーディネーター	認定NPO法人 STスポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5学年2学級43名
実施日程	2019年12月16日(月)、2019年12月19日(木)、2019年12月23日(月)



授業のねらい

教科書教材は西洋の音階による楽曲が中心なので、そうではない、伝統音楽の魅力に触れることができるような体験活動を通し、子どもたちの音楽表現の幅を広げたい。

主な内容

<1日目>はじめにアーティストより1曲演奏。3回の授業を通して、箏の演奏家であり作曲家になってもらおうと思う、ということ伝え、簡単な箏の説明。3人1組になって、箏の基本的な弾き方を習い、さくらさくらの始めの部分を練習。(クラスごとに実施)<2日目>教員の方で前の時限に、お気に入りの場所で聞こえてくる音を絵や記号で「音探しカード」に書き出してみる課題を行い、そこに書かれていた音のいくつかを黒板に書き出し、アーティストがそれらの音を箏で表現してみる、という遊びを行った(葉がこすれる音、水や風の音など)。さまざまな箏の奏法を紹介し、いろいろな音を出して遊んでみた後に、グループごとに、さくらさくらの冒頭に続く旋律を創作した。(クラスごとに実施)<3日目>クラスごとに各グループの作品の練習をした後、2クラス合同でそれぞれのグループの作品を鑑賞し合った。最後のアーティストによる演奏では、子どもたち自らさまざまな奏法を体験したがゆえに、プロが演奏する姿に釘付けになって鑑賞していた。

アーティストから

今回のワークショップは、伝統楽器としての姿を知ると共に、箏を通じて音楽の面白さを子どもたち自身で発見してもらおうことをテーマに、3人1組で、弾く、音探し、創作を行った。チームごとにさまざまな色で描かれ、大人にとっての特別が、子どもたちには自然なこととして生み出されたように感じる。創造と挑戦は、ドレミの向こう側に広がる箏だけの魅力を知る宝探しで、3回を経て一人ひとりが、勇者のごとき輝きに満ちていたことが、非常に印象的であった。

コーディネーターから

音楽や楽器が得意な子もそうでない子も、等しくゼロからのスタ

ート。「できた!」という喜びの声があちこちから聞こえ、そのうれしさが「いろいろ試してみたい」というやる気に火をつけたようでした。先生の方で課題を出しておいてくれた「音探しカード」には、お気に入りの場所で聴こえたさまざまな音が言葉や図形楽譜のように描かれており、それをどうやって箏で表現するか、アーティストがいろいろと試してみるのを、子どもたちはワクワクしながら見入っていました。それから子どもたちの番になると、3人1組での役割分担により、一面の箏からいろいろな音が同時に聞こえてくるよう工夫されていたり、実際にあるような現代奏法を子どもたち自ら考案していたり、グループでの創造力が発揮されていました。「箏は遊び甲斐のある楽器」と山野さんがおっしゃるように、子どもたちの発想により箏の可能性が十分に引き出されたように感じられました。

先生から

箏の演奏を体験させていただきました。子どもたちにとってはほとんど初めて触れる楽器でしたが、大変意欲的に取り組んでいました。アーティストからのご提案で、曲を弾くことに終始するのではなく、自然音までも表現するような箏のさまざまな奏法を教えてください、それを用いて自由に表現する活動になりました。3人グループで旋律や音を組み合わせるようになりましたが、活発に音の聴き合いや話し合いが行われ、活動が広がっていきました。大人が想像していたとは異なる思いがけない表現が生まれ、型にとらわれない創造的な表現がどのグループでも見られました。とても充実した活動になりました。いつもと違う子どもの姿が見られて良かったです。0からのスタートだったので、お互い対等な立場で活動できたことが良かったのではないかと思います。知らないものだからこそ興味津々、意欲的に取り組んでいてとても良かったです。

子どもたちから

ことにしか出せない音があるんだなと思った。／他の人の音をきくのがとてもたのしかった。／みんなで発表してみて、それぞれのきれいな音が出ることを学んだ。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立四季の森小学校 × 入手杏奈 からだで遊ぶ

担当アーティスト	入手杏奈（ダンサー、振付家）／アシスタント：北川結（ダンサー、振付家）、涌田悠（ダンサー、振付家）
実施校	四季の森小学校（旭区）
コーディネーター	認定NPO法人 STスポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 11名
実施日程	2019年9月6日（金）、2019年9月12日（木）、2019年9月18日（水）、2019年9月26日（木）



授業のねらい

恥ずかしがらずに自信を持って表現できる経験や、関わり合いの中で、自分を認めていく経験を積ませたい。

主な内容

<1日目>ご挨拶ダンス、ウォーミングアップ、出会った人と身体のいろいろなところでタッチ。円になって誰かにボールをパスする～ボールと一緒に自分も行く～ボールなしで踊りながら行く。誰かにタッチした形で止まる、ダンサーの動きをまねていく。<2日目>ご挨拶ダンス、身体で遊ぶ（裸足の足を触る、だるま転がり、2人組になって背中合わせで立つ、手と手・足と足をつないでバランス）。動物の動きをまねる。タンバリンの音に合わせて動く、一人ひとりの名前になんだ動きで遊ぶ。<3日目>ご挨拶ダンス、身体で遊ぶ（裸足の足を触る、お尻で歩く、だるま転がり、2人組で背中合わせ、バランス）。タンバリンの音に合わせて動く。海の中のいろいろなものの動きをまねる、食べ物になる。空間に、身体のいろいろなところで名前を書く、円になって一人ひとりの名前ダンスを見合う。<4日目>ご挨拶ダンス、身体で遊ぶ（軽くストレッチ、お尻で歩く、2人組になって背中合わせ、バランス、タンバリンの音に合わせて動く）。円になって誰かにボールをパスする～ボールと一緒に踊りながら誰かにパス、アイテムを変えていく（新聞紙、ペットボトル、ひも）。一人ずつ、ダンサーとのデュオダンス。

アーティストから

子どもたちは観察すること、発明することを繰り返して、とても繊細にその場で起こる全てのことからいろいろなものを受け取っているようでした。回数を重ねるごとに私と子どもたちとの関係や場の空気そのものがなじんでいったように感じました。子どもたちはここにいながら、別の世界とも交信しているような豊かさがあって、みんなの身体から生み出されたダンスをずっと忘れたくないなあ、と思っています。これからもたくさんのひらめきと小さな感動をエネルギーに生きていって欲しいです。

コーディネーターから

回を重ねるごとに、誰かがやっていることをじっと見守る、待っている、ということが起こっていました。全4回の中にふんだんに「誰かの動きを見て、それを受けて自分が何をするか」と考える機会が仕掛けられ、遊びながら経験したことで、自分の表現を誰かが受け取ってくれている、その実感が持てたからこそ、誰かの表現に関心を持ったのかもしれませんが。誰かの表現を受け取って、それに応える、その身体でのコミュニケーションが自然と生まれていました。身体を使った発想豊かな遊びをたくさん経験したことで、自分のこの感覚が好きだな、というのを見つけるきっかけになっていけば、と思います。

先生から

事前にコーディネーターさんとの打合せもしっかりやっていただき、アーティストさんも見学に来ていただいたおかげで、子どもたちもスムーズに参加できました。活動はアーティストさん主導でやっていただきましたが、その後の学習の中でも、児童が自分たちで楽しみながらできるような内容だったので、いつまでも楽しめています。担任も、子どもたちの補助もしつつ一緒に参加させていただき、一緒に楽しむことができました。

子どもたちから

ボールの活動が一番楽しかった。なまえのやつが楽しかった。／あんなさんと一緒におどった。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立飯島小学校 × 岩田とも子 「地面のことば」を聞いてみよう

担当アーティスト	岩田とも子（アーティスト）
実施校	飯島小学校（栄区）
コーディネーター	認定NPO法人 STスポット横浜
実施科目・教科名	図画工作、生活、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 32名
実施日程	2019年11月26日(火)、2019年11月29日(金)、2019年12月10日(火)、2019年12月18日(水)



授業のねらい

この体験を通して、いろいろな表現方法を知り、自信を持って自分の思いを伝えようとするができるきっかけとしたい。失敗したくないという思いが強い子もいるので、自然に思い思いに表現できる体験を積ませたい。

主な内容

<1日目>アーティストより自己紹介と、4回の授業を通して子どもたちとやってみようことを提案。草木の様子や落ちている自然のものから「地面のことば」を探り、地面が何か言おうとしているかもしれないと、想像して遊んでみることに。一人ひとり袋を持って校庭へ出て、落ち葉や石などの自然物を収集、それを画用紙の上に広げて虫眼鏡で観察した。<2日目>前回収集したものの中からお気に入りの3つを選び、標本作成。どのようにボンドで接着させるかななどのレクチャーを受け、どの側面をよく見えるように置くかこだわりながら試行錯誤。70枚近い標本を並べて鑑賞すると、単なる落ち葉や石が特別なものに見える不思議を味わった。<3日目>前回までの活動の振り返りを簡単に言い、作った標本から、この葉っぱや石はどんなことを言っているかな、何の文字に似てるかな、どんな気持ちなのかななど「地面のことば」をみんなで探ってみた。その後一人ひとり、気に入った標本を3つ選び、どんな「地面のことば」が聞こえるのかを想像して書き出した。<4日目>自分で収集した自然物の標本のうち一つを選び、箱に入れて、その「地面のことば」を書いた（キャプションをつけた）、標本箱の作品を作った。

アーティストから

「地面が何か言っている…かもしれない。」こんな思いつきを言うのは結構勇気がいるし不安もあった。でもその小さな思いつきに

一歩一歩近づいてくれる子もいれば、びよんと飛び込んでくれる子、通り越していくような子もいて一緒に地面を歩いているうちに私の不安は冬の風に吹かれてどこかへ。何気ない葉の曲線や石の立ち姿、空気や時の移ろいまでも目で拾うような子どもたちの作品をみて思う。地面はやっぱり何か言っている…。

コーディネーターから

敷地内に里山のような草木があり、校庭の周りをぐるりと散策できる飯島小。個別支援学級の子たちはその中でもバラ園のお世話をしながら自然の不思議を学んでいるとのことで、地面に起こる小さな変化や不思議の楽しみ方を、アーティストの岩田さんに教えてもらいました。自分で見つけてきたお気に入りの葉っぱを、よく観察し、どんなことを言おうとしているのかと空想で対話し、誰かに見せる作品にする。子どもたちは、一人ひとりのこだわりや感性を他者と共有する、その素敵なコミュニケーション手法を知り、このような形で表現する喜びを感じていたようでした。

先生から

子どもたちが里山や自然に興味を持っていたため、活動に自然と入ることができました。活動の中で「地面のことば」を子どもたちがどのように捉えているのかがとても興味深かったです。里山で拾った身近なものに価値を与えることで宝物になることに気付き、面白い発見をすることができました。

子どもたちから

4回の活動すごく楽しみだった。／作品作りが楽しかった。／いろいろなことを教えてもらって楽しかった。／とても意外性があったて楽しかった。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上菅田特別支援学校 × ドゥイ 触れて見て聴いて～素材をじっくり味わう時間

担当アーティスト	造形ユニット ドゥイ（造形作家）／ゲストアーティスト：テニスコーツ（音楽家）
実施校	上菅田特別支援学校（保土ケ谷区）
コーディネート	認定NPO法人 STスポット横浜
実施科目・教科名	美術、音楽
実施概要	体験型／造形／高1～3 学年 13名
実施日程	2020年1月14日(火)、2020年1月16日(木)、2020年1月21日(火)、2020年1月28日(火)



授業のねらい

「感覚を媒体とした身体意識の形成」「社会性、認知、コミュニケーション能力の拡大」を重点に、普段なかなか体験できないような授業を期待。

主な内容

<1日目>ただの白い紙や、お花紙、色紙、厚めの紙、アルミホイルなどさまざまな素材を手渡し、それぞれに感触を楽しんだり、紙の音を楽しんだりした後に、教室に張り巡らせた紐にセロテープでつけていき、装飾的な空間を楽しんだ。生徒たちは、気になる色や硬さの紙に興味を示したり、ぶら下がった飾りに手を伸ばして反応したりする様子が見られた。<2日目>透明なビニール袋で作った大きな筒状のチューブに大型扇風機で風を通し、そこにちぎったお花紙や色紙、ビニールテープ、小さな風船などを入れて、中でぐるぐる回る様子や、流れて飛んでいく様子を楽しんだ。空気が入ったビニール袋の感触が気に入った生徒や、風に乗って物が飛び出す様子に見入る生徒など、いつもと異なる経験に興奮気味の姿が見られた。<3日目>一人ずつ紙を渡して、破る・丸める・揺らすなどをしての紙の音や質感、感触を楽しんだ。アーティストが音楽に合わせて「紙を鳴らそう」などと歌うと、さまざまな場所から紙の動く音が響き、演奏する音楽に混ざり合っていた。紙を丸めて筒状にして耳に近づけると、周りの音がいつもと違う響き方になることを面白がって、ちょっとした音も聞き逃すまい、という表情が生徒たちからも伝わってきた。<4日目>長いロール紙を生徒同士をつなぐように張り巡らせ、紙に包まったり、紙で造形したりした。レインスティックや大きなペンキ缶などを手に取って、それぞれの耳元で不思議な音を楽しんだ。会場を少し暗くして、光を当てながら大きなミラーボールを近づけると、自らボールを動かして光の動きが変わることを試していた。最後は一人ひとりに名前を呼び掛けながら即興の歌をプレゼント。

アーティストから

5年前に一度同じメンバーで同ったことがあったのですが、その時はどうやったら伝わるのかが予測がつかず、焦って毎回これでもかというんなことをやって、一方的になってしまった側面もあったなという反省がありました。今回は余裕があったかという

そういう訳でもないのですが、参加している子どもたちが何を感じているかに耳を澄まし、対話できるように心がけていました。音楽が入ることで子どもたちの反応が変わったな、と感じることがあったのですが、自分の感覚も音楽で変化していくのを改めて感じて、同じものを同じように共有できるのかもしれない、と思えるような体験になりました。（ドゥイ）

前回は、生徒さんたちに私たちの演奏がどのように届いているのかが不安なところがありました。今回は、わ！みんなよく聴いてる、すごく敏感なんだな、などと感じられることが多かったです。ドゥイの創作をはじめとして、そこにおられる先生やスタッフのみなさん、そして、生徒のみんなが一つの場となり、私たちはそこに色を付けるように、演奏していきました。よく考えたら、普段のライブでも、こういった姿勢は重要な指針であり、この体験を通してそれを再認識することができました。大切にしていきたいと思います。（テニスコーツ）

コーディネーターから

授業のはじめに、アーティストから「目標やゴールを決めずに、それぞれに楽しめることを見つけてやってみてほしい」ということを教員に伝えて活動を始めました。それによって「今日の前にある素材で、どう生徒と楽しめるかを探る時間なのだ」という共通認識を持つことができたと感じています。教員との振り返りの中で、「次から次へ展開する授業に教員自身が慣れていることもあり、一つの素材をじっくりと味わってみるというアプローチが新鮮に感じられた」という言葉が印象的でした。

先生から

ずっと紙を使った活動を取り入れていただいたおかげで、1回目と4回目では生徒たちの表情が違いました。継続って大切だなと思いました。活動の中で子ども同士の関わりがもっとあると、より充実した、広がりのある活動になったかな、と思いました。教員だけではできない、ダイナミックな活動をたくさんさせてもらえて良かったです。アーティストの方々も生徒の顔と名前を覚え、何が好きかなどを、さまざま考えて授業を行っているのを感じました。



ハートフルルーム十日市場 × 福留麻里 身体と音で遊んでみよう

担当アーティスト 福留麻里(ダンサー、振付家)/アシスタント:白井愛咲(ダンサー)、高橋牧(パフォーマー)

実施施設 ハートフルルーム十日市場(緑区)

コーディネーター 認定NPO法人 STスポット横浜

実施科目・教科名 体育

実施概要 体験型/コンテンポラリーダンス/中学1~3年生7名、支援員ほか4名

実施日程 2019年9月19日(木)、2019年12月5日(木)、2019年12月12日(木)



授業のねらい

やったことのない活動に触れ、自分が楽しめることを見つける機会としたい。また、自分が何を感じているのかを確かめたり、人に伝えたり受け取ったりすることが少しでも楽しいと感じられる時間としたい。

主な内容

<1日目>教室を歩いてみる。簡単なストレッチで身体をほぐす。教室内の自分が落ち着く場所を探して留まる。1分間周りの音に耳を澄ます。自分でも音を出してみる。円になって拍手を順番にまわしていく、見えないボールをまわしていく。ダンサーの動きをまねして身体を動かす。新聞紙を自由に使って遊んでみる。
<2日目>身体をほぐす。円になって拍手を順番にまわしていく。まわす方向を自由に変えてみる。拍手の代わりに木の葉やスリッパなど、いろいろな物をまわしてみる。糸電話の先にスプーンを付けて鳴らして音を聴いてみる。ペットボトルや瓶、洗濯ばさみなどで遊んで、自分の好きな音を見つけてみる。
<3日目>身体をほぐす。ペットボトルを動かしてその動きを身体でまねる。本を頭の上や背中に乗せて歩いてみる。マスキングテープや落ち葉などを使って、空間に自由に描いたり飾り付けたりしてみる。他の人が作ったものにも付け足していく。

アーティストから

ハートフルルームでのワークショップは、今年度で2回目だった。前回も強く感じたが、表面には見えないレベルで、気持ちや感覚や雰囲気ややりとりがざわざわと行き交っているようだった。今回、「物」を介して動くことに焦点を当てていった。物が間にあることで、感じる、動くことに接続しやすくなったり、感覚を物に託したり、場や自分自身、他者とやりとりしやすくなることがある。ということが、中学生たちの取り組み方のささやかな変化を通じて感じられた。そして、継続することで場の状態や関係

性が少しずつやわらかく解放されていく可能性を感じた。

コーディネーターから

昨年とはまた雰囲気の異なる子どもたちの様子に戸惑いつつも、その時その時の様子を察して、やる内容を臨機応変に調整してくださったアーティストの絶妙なさじ加減が見事でした。回を重ねるごとに、一人ひとりの興味を持つポイントや得意なことが見えるようになっていくと、すかさず「いいね」と肯定していく。何をしても間違いがない、ということが分かった中で、小さな範囲で「相手の反応を見て対応する」「自分でどうするかを決める」ことを重ねられた時間でした。

担当職員から

上手下手がなく自分の好きなように身体を動かしているところや、肯定的な声掛けに、安心して活動できました。子どもの状態を見取り、臨機応変に対応していただいたことに感謝しています。子どもの発想を生かした展開は、安心できました。内容的には、ここにいる子どもたちにとって苦手な活動をしなければいけない場面もあり、少し厳しい面もあったように思いました。ただ、終了後にはアーティストたちと子どもたちが語り合う場面が見られ、そうした時間を最初から設定しておいても良かったかなと思いました。

子どもたちから

ペットボトルの形や大きさで音が変わるのがすごかった。/物を使って遊ぶのが楽しかった。特にマスキングテープを使ったことがおもしろかった。/テープを使ったり、いろいろな物で音を出したり、とってもおもしろかった。/マスキングテープをべたべたしたのが楽しかった。/新聞を使ったのがとてもおもしろくて楽しかった。のんびりと身体を動かせたので、心がスッキリしてよかった。